

2012 年度第2回エンデューロ部会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日： 2012年11月22日(木)

開催場所： 一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会・会議室

I. 前回議事録の確認

2012年度第1回エンデューロ部会議事録が提出され、承認された。

II. 2012年度主要競技会開催状況報告

2012年度全日本ED選手権シリーズ全3戦(5ラウンド)の開催報告が提出された。

1. 参加台数

全日本選手権対象クラスの1大会あたりの平均合計数は、70台であり、前年比127%と増加した。
クラスごとではIAが13台(1大会あたり平均)で108%、IBが16台(1大会あたり平均)で123%、
ナショナルが37台で142%と増加した。

2. 第3戦(Round ④⑤) 日高2days大会審査委員長報告

年々コンパクト化されたが、今年はまた従来のダイナミックなコース設定となり、過去全日本開催前の日高らしさ(日高らしさとは、北海道のロケーションを生かした、ボリュームのある、気持ち良い走り心地)が戻り、天候にも恵まれ、参加者にも素晴らしい大会だったと、選手からも絶賛されていた。また、全日本開催する主催者間の競争意識を高める大会でもあったと思われる。

前日の降雨によりコースの難易度が上がりクロステストで承認クラスに渋滞が発生した為、急遽当該箇所を全日本クラスのみに変更し、大きな影響は発生しなかった。

また、フィニッシュを受けずに車検まで受けた選手が、その後、フィニッシュにカード提出し受理されたことに対する抗議があり、当該選手が失格処分となった(ウィメンズクラス)。

3. 九州大会の中止について

事務局より11月24～25日に阿蘇で開催を予定していた全日本ED第4戦九州大会(Round⑥⑦)が主催者の都合により、救護体制が確立できない点等を考慮し、中止となったことが報告された。

※藤原部会長より、代替え大会等の提案も検討したが、九州大会中止に至った経緯が報告された。

4. 三宅島ED開催報告について

事務局より、2013年10月13日～14日に開催された「WERIDE 三宅島エンデューロレース」の開催について三宅村から報告書が提出された。来年度の開催については、詳細な内容が発表され次第、報告することとなった。

III 2012 全日本エンデューロ選手権シリーズ・エリア選手権シリーズランキングの承認

全日本選手権ならびに北海道・東日本・西日本エリア選手権シリーズランキングが、いずれも承認された。

1. ランキング決定基準

7ラウンド中6ラウンドの有効ポイント制が適用されている全日本選手権シリーズは、最終戦が中止となり開催数が5ラウンドとなった為、適用するランキング決定基準に関して審議され、当初予定だった6ラウンド以下の開催数で終了した為、5ラウンドまでの合計ポイントにより順位を決定することが承認された。

2. 昇格者

事務局より下記の昇格者が報告され承認された。なお各選手には昇格通知が發送されることが報告された。

(1) 自動昇格【全日本 IB → IA】

佐々木智満 238909 渡會修也 143012 永木雄二 140558

(2) 自動昇格【全日本 国内 → 国際】

浅野徳久 238230 小坂竜也 230210 田中弘行 238245 西森裕一 038039
吉沢康弘 230434 前橋孝洋 229862 菅原勇太郎 192366 菅原玄光 238895

(3) 申請昇格【エリア IB → IA】

谷口篤司 208516(北海道) 森耕輔 118641(東日本) 前田啓介 217707(西日本)

(4) 自動昇格【エリア 国内 → 国際】

北海道: 菅原勇太郎 192366(全日本 W) 久保田実 179031 逸見将人 023759
岩崎真 022856 立蔵義春 019771
東日本: 小坂竜也 230210(全日本 W) 浅野徳久 238230(全日本 W)
吉沢康弘 230434(全日本 W) 半谷尚政 238214 栗田武 152835
西日本: 森田昌和 017346 岡本薫 154848 永長紀明 023253 田端啓伸 082604
明石亨 230216

3. シーズン途中昇格者報告

以下2名は、エンデューロ競技規則 6-3 の規則に則り昇格申請を行い、2012年シーズン途中でIAへ昇格が認められたことが報告された。

釘村忠 067087 渡辺学 141585

IV. 国内競技規則の改訂案について

1. 規則改訂

2012年度第1回エンデューロ部会で決定した規則改訂箇所の確認ならびに国内競技規則書の改訂案が提出され、承認された。

(1) 主な改訂箇所

P260 6のタイトルを、「ライセンス、ライセンスによるクラス区分、ポイント、ゼッケン」へ変更。

P261 7-5 「2013年全日本選手権シリーズの全クラスのランキングは、7-1によって与えられた全ラウンドの合計得点により決定される」へ変更。

P261 8-1-1 「当該選手権の最初に主催者から与えられたフィニッシュ時刻から60分以内(フィニッシュ時刻前は不可)に当該

選手自身が車両を提示し、再車検を受けること。ただし、特別規則(SR)によって再車検時刻が規定されている場合は特別規則(SR)に従うものとする」へ変更。

P261 8-1-2 「車検のフレームは大会の事前車検時と同じものであり、事前車検時のペイントがされていること」へ変更。

P273 **30** テストの注意事項

「安全上の理由から主催者が変更することを除き、ライダー・メカニック等がテストのコース変更を行うことは禁止される。万一、コース変更(違反行為)により有利と判断されたライダーには最低1分のペナルティーが与えられる」へ変更。

P274 **31** テストのスタート方法 (4度目までのスタートをしなかった場合の罰則表記部分追加)

ライダーはスタートの合図から5秒以内にスタートをしなければならない。

①ライダーは最初の合図でスタートをしなかった場合、注意を受ける。

②2度目の合図でスタートしなかった場合、20秒のペナルティー

③3度目の合図でスタートしなかった場合、1分のペナルティー

④4度目の合図でスタートしなかった場合、失格 を追記。

P274 **33** ペナルティリスト

33-3 失格(または他のペナルティー)

「スタートに ~~60分~~ 以上遅れる」 → 「スタートに 15分 以上遅れる」へ変更。

P282 21-3 で追加

マウスガード(マウスピース) 口の怪我防止のために、カスタムメイドのマウスガード(マウスピース)の装着が推奨される。マウスガード(マウスピース)の色は、口の中の出血が見分けやすいように明るい色が望ましい。

P283 23-4-3 「事前車検における音量測定は指定された時間内であれば、何度でも受けることができる」へ変更。

(2) 以下は、ライダー以外の者が車両に触れる行為に対して明確化を目的とした改訂であることが説明された。

P268 **19** 外部からの援助

19-2-1 ゼッケンプレートとプラスチックパーツに貼り付けられたスポンサーステッカーへの布やスポンジでの清掃作業。

19-2-2 オイルフィルターカバーの脱着とオイルフィルターの交換作業。ただしアンダーガードの脱着はライダーのみが行うことができる。

P269 19-6 車両から取り外されたマーキング部品に対する作業はライダーのみが行うことができる。

19-7 ホイールに対する作業(スポークの交換、ブレーキディスクの交換)はライダーのみが行うことができる。

リムから取り外されたタイヤに対しては、メカニックがムースの入れ替え作業を行うことができる。

19-8 車両から取り外されたエンジンに対する作業はライダーのみが行うことができる。

19-9 修理のために取り外されたサイレンサーに対する作業は、ライダーまたはメカニックが行うことができる。

19-10 ライダーによって車両から取り外されたペイントされていないパーツ(サスペンション等)に対する作業は、ライダーまたはメカニックが行うことができる。

(3) 再審議提案

エンデューロオンタイム競技方式におけるサイレンサーの扱いについては、事前車検時と競技中の2つの状況に大別される為、規則改定案を、再度修正することが確認された。

また、前回決定した「30分以内ならば何度でも音量測定を受けられる」と決定した規則も上記の状況に分けて見直すべきとの提案がなされ、前回決定を差し戻した上で、以下の通り決定した。

①12-8-1: 事前車検(競技開始前)の音量検査は主催者が指定する車検時間内であれば何度でも受けることができることとする。

②12-8-2: 競技開始後の音量検査において、最初の音量測定で音量が規定値を上回った場合は選手に対し1分のペナルティーが与えられ、2度目の音量測定において音量が規定値を上回った場合は失格または他のペナルティーが与えられることとする。

③12-9: 競技中のサイレンサーの交換は競技役員に通知し競技終了後に音量測定を受けなければならない。

④12-10: 競技終了後のサイレンサーの交換及び検査方法は、競技第1日目終了後、パークフェルメに車両を保管する前にサイレンサーの修理及び交換をすることができ、作業時間として選手に与えられた30分間にサイレンサーの交換または修理を行い、音量検査を受けなければならない。30分経過後、音量検査に合格しなかった場合は競技2日目に参加できないこととする。

2. その他規則について

①ISDE の出場資格者について

2013年9月30日～10月5日にイタリアで開催されるISDEの日本代表(トロフィー)チームの出場意思確認について、例年通り、2012年度インターナショナル Aクラスのポイント獲得者ならびにインターナショナル Bクラス1位～3位までの選手に事務局から案内を発送することが報告された。

シーズン途中でインターナショナル Aクラスに昇格したライダーはこの権利の対象とはしない事が確認された。

②捨てレンズの使用について

製造メーカーより、成分分解素材により、捨てたままでも土に戻るレンズが開発され、環境上も有効的である為積極的に使用できるように提案したいとの要望があったが、大会や会場によっては、土に戻るまでの時間が長いかかると、借用している地主に迷惑をかける点も指摘され、レンズを捨てる行為事態を禁止にせざるを得ないこともあることが判明した為、大会ごとに捨てレンズの使用可否を主催者へ確認し、許可を得た場合に限り使用を可とすることが確認された。

③ライセンス優遇期間について

2013年1月～3月の期間に新規でライセンスを取得する場合、2013年4月1日～3月31日有効ライセンスの申請とセットで申し込むと料金を割引きとする施策が適用されることが事務局から報告された。

V. 普及対策について

1. 2012年10月末現在の競技ライセンス登録者数のデータ資料が事務局から提出された。

エンデューロライセンスは、昨年の211名に対し、今年は248名登録され、118%の増加となった。

国内ライセンスは130%と増加したものの、国際ライセンスは89%と減少しており、エリア選手権の開催における国内ライセンスの需要が伸びたが、全日本の開催が不安定である為国際ライセンスが減少したのでは？との検証結果が報告された。

地区ごとの登録者数の推移は、北海道・近畿・中国・四国が増加し、東北・関東・中部が減少、九州は横ばい。特に、北海道と中国・四国は、今年から開始されたエリア選手権シリーズの効果が表れたと言える。

2. JEC プロモーションから提出された「全日本選手権の過去3年比較表」が報告された。

40代～30代が最も多く、ナショナルクラスとインターナショナル Bクラスが増加となったが、併催承認クラスは減少し、承認クラスに参加していた選手がナショナルクラスへクラス変更をしたのではないかと承認併催クラスの参加者を増加させる施策が必要である。

地区ごとのライセンス会員は、エンデューロの大会を盛んに行っている北海道が圧倒的に多く、人口密度の高い首都圏を上回っている。エントリー代金の支払いは、現金書留によるものは皆無に等しい。

3. エンデューロ競技会における VISION 作成の草案が事務局から提出され、説明された。

(1) 2012年度第1回エンデューロ部会で提案された課題を作業部会で検討していく方針について

- ・ JEC ライツ、エリア選手権、全日本選手権の一元化
- ・ JEC プロモーションにおける一元管理(MFJED 部会とのハーモナイズ)
- ・ 新たな会場の選定及び運営指導

(2) 作業部会で検討するにあたり、協議の指針となる VISION を作成し、それに向かって作業分担をいつまでに行うか？決定しなければならない。

(3) 現状のエンデューロをとりまく環境

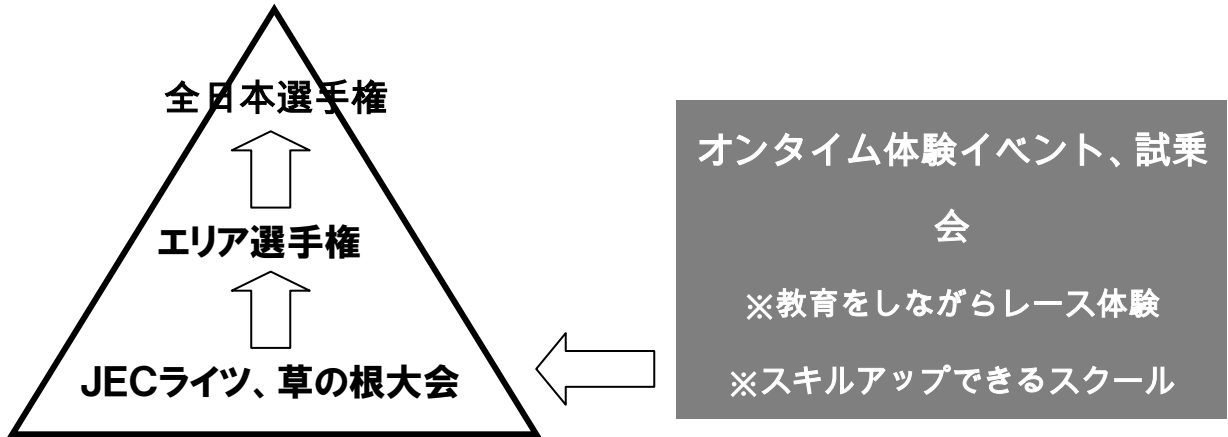
- ・ “ISDE、全日本ありき”でスタートし、そこからエリア選手権に触手した為、支える層が育っていない
- ・ 加盟団体の関与はほぼ無いに等しく、各地区の部会または主催クラブに競技会が依存されている
- ・ “全日本選手権”の主催権として認められている規定を満たしているのは、SUGO 大会のみ。あとは

地区部会の主催としてシリーズが成立している。

- ・ 中部、四国、近畿にはエンデューロ部会が存在していない
- ・ 全日本選手権は一部の大会で JECPRO が外注業者として、業務委託の範疇で作業をしている

(4) MFJ のエンデューロが目指す姿（理想像）

- ・ 底辺層からトップクラスまでの構成をピラミッド型で築き、定着させることが重要。



- ・ JECPRO を核とし、初心者層からトップクラスまで運営、管理を一元化することが望ましいのではないかと？
- ・ JECPRO に対し、全日本をはじめとする競技会の運営をシリーズで権限を持たせ、とりまとめることで、運営の合理化や JEC シリーズ全体の掌握が可能となり、MFJ や各主催者だけでなくライダーやスポンサー企業も利便性が向上するのではないかと？
- ・ ただし、JECPRO の活動費が捻出できないと動きがとれない。

(5) 考慮すべきポイントの整理

- ・ エンデューロ競技は、MX や TR ライダーから転向する者も多い。
オフロードスポーツとしての多様な楽しみ方とゲーム性があり、車両のポテンシャルよりむしろ個人の技量が試される趣向が受け入れられているのか？
- ・ オンタイムルールにある問題点
煩雑な計時ルールが必要であり、機材の導入だけでなく計時スタッフも多く必要な為、莫大な経費がかかる。また、観客が見込めないことで、収入はエントリー収入とスポンサー協賛収入に頼らざるを得ない。
- ・ MFJ エンデューロ競技会の抜本的見直し
- ・ 全日本を頂点とし、威厳がしっかり保たれるべき・・・簡単に変更や中止をしない、結果はしっかり出す等
- ・ エリア選手権はチャレンジ型を目指すライダーと各地区で楽しむライダーの共存でよい
- ・ JEC ライツは、オンタイム普及の為に必要不可欠であり、できるだけ 8 地区で定期的に開催してほしい。
・・・各地区に部会があると協力スタッフが集めやすい(MFJ 加盟団体の積極的な協力は期待できない)
・・・ライツと同時に体験試乗会やスクールを行い、オンタイム初めて選手の養成を行う(専用クラス)

(6) 意見 <※九州大会中止の再発防止策に関する意見も含む>

- ・ 主催権の問題がある。従来、全日本選手権は MFJ、加盟団体、特別会員にのみ認められているが、エンデューロは加盟団体事務局とのパイプも弱く、主催権のハードルが高い為、各地区エンデューロ部会の主催を中央のエンデューロ部会で認められた経緯に基づき現状開催している。今後、全国的に競技会開催を広めていく為にも、現在部会の無い地区(近畿、四国、中部)にもエンデューロ部会を設立してほしい。
- ・ 単純に部会で主催するとの考えではなく、主催や部会を構成するメンバーの育成が必要である。
- ・ 全日本選手権は基本 2DAYS 開催とし、ISDE を目標に堅実な大会であるべき。また、エリア選手権やライツの出場者が目指す大会として内容を精査すべきである。
- ・ 全日本選手権の開催を安易に考えるべきではなく、変更や中止が発生した場合の影響力の大きさの事を各主催者が再認識すべきである。

- ・ 前回の部会で九州大会の開催地が確実なものとなっていなかった発言もあったにも関わらず予定に組み込んだ点でエンデューロ部会の責任も大きく、反省が必要。
- ・ 既に1度会場が変更されてからのさらなる変更はエントリーに不信感を与えてしまっている。

4. 普及活動の今後の動きについて

(1) 全日本開催におけるガイドライン

“九州大会中止”の再発防止策として、全日本エンデューロ選手権を開催する上でのガイドライン決定について協議された。

決定事項

- ・ 全日本選手権は、1day でも開催を承認する。(原則は 2days を推奨する)
- ・ 全日本選手権シリーズを開催する会場及び主催者は、開催申請前までに最低 1 回以上のエリア選手権大会(オンタイム制に限る)を主催し、大きな問題が発生しなかったことを条件とし、MFJ エンデューロ部会の承認を得なければならない。
- ・ 全日本選手権シリーズを開催する会場及び主催者は、全日本申請する前に当該主催者の主催する全日本開催予定コースで開催されるオンタイム方式による競技会を、MFJ エンデューロ部会代表者(部会長または部会長に任命された部会員)を招へいし、査察を受けなければならない。
- ・ 全日本開催事前査察に関わるMFJエンデューロ部会長(または代表部会員)の派遣費用(交通費・日当・宿泊費・食費等)の全ては、招へいする主催者が負担する。
- ・ 参加者向けのマニュアル作成は、オンタイム競技規則の理解にもつながる為、作業部会で検討する。

(2) JEC プロモーションからの提案

全日本エンデューロ選手権のエントリー作業一式、スポンサー営業活動、メディア対策(情報誌発刊・専門誌広告・ホームページ運営等)を一元化とする提案がなされ、北海道・東北・SUGO・中国・九州においてはJEC プロモーションへの業務委託を行うことが承認された。

※なお、上記以外の地区で開催される大会は、JEC プロモーションと主催者が直接主催者と条件面について協議し、決定する。

(3) 作業部会の調整

代替開催や変更における議論において、全日本開催のあり方やエンデューロ競技主催権の問題、規則の調整等の問題点が浮き彫りとなった為、作業部会において検討し、再発防止に対処することが提案された。普及作業部会は、下記メンバー構成で2013年1月22日(火)にMFJ会議室にて開催する予定。

IV. 2013 年度エンデューロ主要競技会日程調整

1. 全日本 ED 選手権シリーズ (暫定)

第1戦	3月31日	広島大会 (テージャスランチ:広島県)	Round ①
第2戦	5月3~4日	定義 2days 大会(大倉牧草跡地:宮城県)	Round ②③
第3戦	7月13~14日	夕張 2days 大会(夕張市:北海道)	Round ④⑤
第4戦	10月12~13日	SSER 大会 (美川スキー場:愛媛県)	Round ⑥⑦ ※調整中
第5戦	11月2~3日	SUGO2days 大会(スポーツランド SUGO:宮城県)	Round ⑧⑨

※調整中 「第4戦 SSER 大会の全日本開催について」

ED 西日本エリア選手権シリーズ主催者協議会が開催され、四国で開催されている SSER 大会を2013年に全日本選手権として開催したい希望が提案された。

但し、開催における問題点として、以下の調整が必要であることが指摘された。

- ・ 車両規則の摺合せ
- ・ 競技規則の摺合せ

- ・ 3Days で開催されている大会の扱い
- ・ 主催権の問題(四国 ED 部会設立の可能性)

決定事項

2013 年 1 月頃をメドに SSER と MFJ 規則との摺合せについて協議を進め、再度、エンデューロ部会に報告し、正式に承認を受けることとする。

正式決定までは、カレンダーの進行において、第 4 戦 SSER 大会については「調整中」の扱いとする。

2. 西日本エリア選手権シリーズ日程 (暫定)

※3Round 合計ポイントでランキングを決定。

- | | | | | | |
|-------|--------------|------|------------|--------------|-----------|
| 第 1 戦 | 3 月 31 日 | 広島大会 | デージャスランチ | 1day (Rd①) | ※全日本併催 |
| 第 2 戦 | 10 月 12~13 日 | 四国大会 | 美川スキー場:愛媛県 | 2days (Rd②③) | ※全日本併催調整中 |

3. 東日本エリア選手権シリーズ日程 (暫定)

※8Round 中 7Round の有効ポイント制でランキングを決定。

- | | | | |
|-------|---------------|---------------------|----------------------------|
| 第 1 戦 | 5 月 3 日~4 日 | 定義 2DAYS (Rd①②) | ※全日本併催 |
| 第 2 戦 | 6 月 23 日 | 定義 1DAY (Rd③) | クロスカントリー方式 |
| 第 3 戦 | 8 月 11 日 | SUGO1DAY (Rd④) | 簡易オンタイム方式 |
| 第 4 戦 | 9 月 14 日~15 日 | チーズナッツ 2DAYS (Rd⑤⑥) | DAY1:クロスカントリー、DAY2:オンタイム方式 |
| 第 5 戦 | 11 月 3 日~4 日 | SUGO2DAYS (Rd⑦⑧) | ※全日本併催 |

4. 北海道エリア選手権シリーズ日程 (暫定) は、部会未開催の為、決定次第、報告する。

5. 東北エンデューロ部会報告

(1) 安全管理について

他団体のエンデューロ競技会で発生した事例が報告され、MFJ 競技会における安全管理について、提案された。

- ①必要最低限の機材準備 …… 無線機、AED、バックボード、ストレッチャー
 - ②必要最低限の救護環境 …… 救護スタッフの LSO 受講、救急車両が入れないコースにしない
- ※①については加盟団体にある機材の借用を可能とするよう本部からも要望に合わせて仲介する。

※エンデューロ競技に起因する以下の問題点を作業部会で対策草案を協議する。

- 問題点 ……
- ・コースが長い為、人の配置が不足する
 - ・現場での処置が限りなく不可能に近い
 - ・山奥での開催だった場合、救急車の到着遅れなどが予測される。
 - ・マーシャルが不足し、途中事故の発見が遅れる可能性がある。
 - ・無線が準備されていない、または電波が届かない。

(2) 東北 ED 部会長の交代について

小松保男氏が、体調不良の理由で東北部会会長を辞任し、後任に藤原広喜氏が推薦されたことが報告された。

6. ベルナード・ホジキンスメモリアルカップ

エンデューロ特別賞として、「ベルナード・ホジキンスメモリアルカップ」が今年も贈呈されることが報告され、前橋孝洋選手が受賞することが承認された。12 月 16 日の MFJ 全日本ランキング認定表彰式にて畑部会員がプレゼンターとして表彰することも併せて承認された。

以上